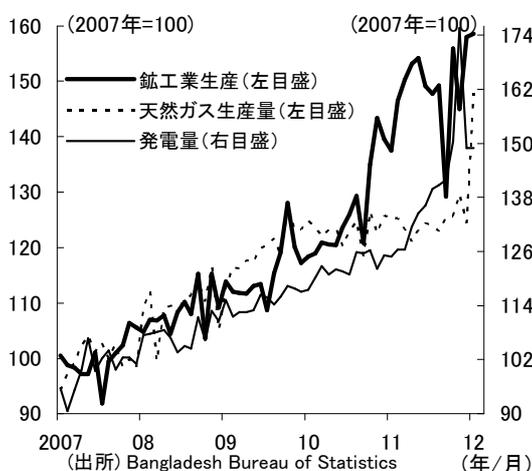


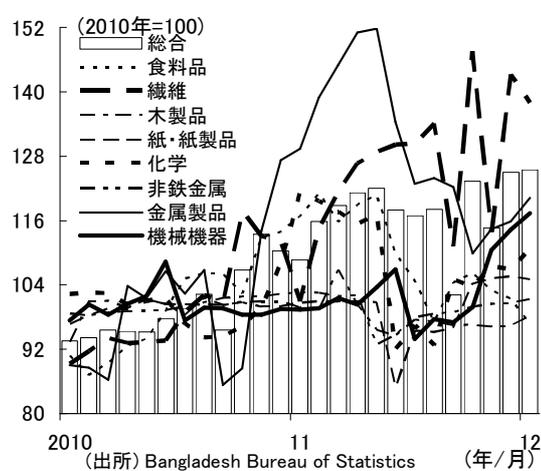
Bangladesh 経済が再加速 ～ 進む軽工業から重化学工業へのシフト ～

- (1) 昨年末から Bangladesh 経済が再加速 (図表1)。まず、経済全体の動向を示唆する発電量が昨年10月以降、大幅に増勢加速。設備投資の遅れから頭打ちとなっていた天然ガスの生産量が本年1月、大きく増加。製造業セクターも再び活況。鉱工業生産は昨年5月をピークに翳りが広がっていたものの、10月以降、再び力強い増勢。
- (2) 鉱工業生産の牽引役が次第に交代。規模別にみると、まず大企業・中堅企業では昨年9月を除けば、10年末以降、趨勢的に生産増となるなか10年末から11年半ばの増加は金属製品が支え、相前後して11年入り後、繊維工業がリード (図表2)。しかし11年6月以降、金属製品は減少する一方、繊維工業は一進一退へ。昨秋来の生産増は機械機器と金属製品。さらに化学工業。これまで同国経済を引っ張ってきた軽工業から重化学工業への牽引役シフトが進行。
- (3) 中小企業でもほぼ同様の動き (図表3)。昨年入り後の産業別生産動向を四半期で見ると、まず鉄鋼をはじめとする卑金属や機械機器が7～9月、昨年比倍増へ。次いで金属製品が前年比2割増で、化学が10%弱の増加。一方、窯業・土石や繊維、木材・木製品は前年並み。
- (4) 成長牽引役の交代は、政府の改革・開放路線のもと、近年、急速に拡大した外資流入が原動力。国内投資が盛り上がり、所得・雇用環境の改善を通じて個人消費も拡大。設備投資が主導する高度経済成長モデルが始動。近年の高度成長や昨年末来の経済再加速は税収にも投影 (図表4)。やや長い目でみると06年までの横這いから07年入り後、力強い増勢に転換。昨春から一進一退に陥ったものの、昨年10月から増勢回復。本年に入って一段と増勢加速。付加価値税と所得税が主因で取引の活発化と所得・利潤増を示唆。少なくとも当面、実質6%の力強い成長持続の見通し。

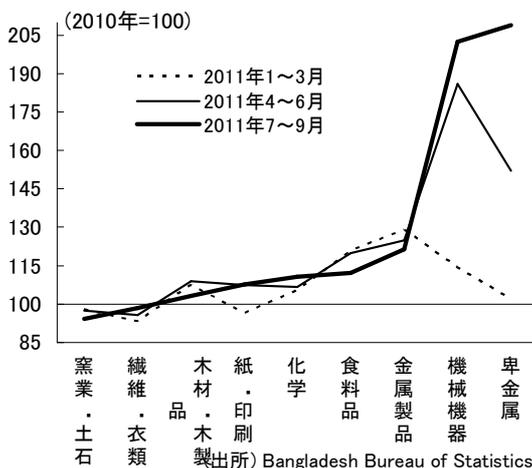
〔図表1〕 Bangladesh の生産と発電量 (季調済)



〔図表2〕 大・中堅企業の鉱工業生産 (季調済)



〔図表3〕 中小企業の鉱工業生産 (季調済)



〔図表4〕 税収動向 (季調済)

